

# 町医者だより

平成23年03月号

## 新規ワクチン接種について

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ジャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

1分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器科

新型インフルエンザが世界中に猛威をふるったのが2009年のことでした。大震災もあってずいぶん昔のことのように思いますが、新型インフルエンザのパンデミックの終息宣言が出された昨年8月のことです。今回は久しぶりに喘息以外の話題、ワクチン接種について話を進めます。

### アメリカを中心に根深いワクチン不信感

ニューイングランド医学雑誌を毎週読んでいると時々ワクチン接種に関する記事が掲載されています。2010年12月2日号の記事を読んで、アメリカ人のワクチン接種に対する不信感はかなり根深いものだ改めて実感いたしました。その記事には、「あの深刻な事態を引き起こすのではないかとパニックになった新型インフルエンザのパンデミック期間でも米国での新型インフルエンザ接種率が20%にしか過ぎず、さらに驚くことにハイリスク患者に接し感染を伝播する可能性のある医療従事者の接種率も50%未満だった」と書かれています。ワクチン不信には以前にもこの町医者だよりでも取り上げたワクチンの防腐剤として含まれているチメロサルという水銀化合物が自閉症を引き起こすといったいまだに決着のついていない論争も大きな影響を与えています。

### アジュバントの安全性は？

輸入新型インフルエンザワクチンでも大いにもめました。ワクチンに含まれる抗原を減らすために加えられているアジュバントという免疫賦活物質に対する不信感も根強くあります。ちなみにサーバリック（HPVワクチン）にはAS04アジュバント複合体が、アクトヒブ（ヒブワクチン）には破傷風トキソイドが、プレベナー（小児用肺炎球菌ワクチン）には無毒性変異ジフテリア毒素とリン酸アルミニウムがアジュバントとして使用されています。どのアジュバントも100%安全か誰もわかっていないと思います。今回ネットで調べていて、「サーバリックスで不妊になる、これは民族浄化のために使われている」、との話題が巷で盛り上がっていたことをはじめて知りました。これらのワクチンを打った直後の副作用よりも10-20年後の長期的な副作用があるかないかぜひとも知りたいところです。

### 100%安全で100%感染を予防できるワクチンはありません

HPV（ヒトパピローマウイルス）や肺炎球菌では予防接種をしてもワクチンに含まれるタイプ以外のHPVウイルスや肺炎球菌感染が増えるとの報告がすでに出ています。これは抗生剤を使用しているとその抗生剤が効かない別の菌感染が増えるのと似ています。予防接種が人類の繁栄に貢献してきた事はゆるぎない事実です。科学的根拠のない極端な不信感は何のメリットもありません（ニューイングランド医学雑誌2011年1月13日号「予防接種反対派との長い戦い」）。しかしながらサーバリックスさえ打てば子宮頸がんにならない、肺炎球菌ワクチンを打てば肺炎にならないとの誤った確信は危険です。海外ですでに接種を実施していても全員が接種しているとは先の新型インフルエンザワクチンの接種率を見てもとても思えません。実際の接種率のデータを今後も検索していきます。